

令和8年度 第1回 GIGA スクール推進協議会 議事録

1 日時

令和8年6月3日（水） 14:00～16:00

2 場所

仙台市役所上杉分庁舎 12 階教育局第1会議室

3 委員

板垣委員、稲垣委員、木村委員、西城委員、佐藤委員、関委員、陶山委員、長濱委員
（五十音順、全8名中8名出席）

4 事務局

天野教育長、田中副教育長、郷家副教育長、阪元次長、小田学校教育推進部長、
佐藤学校教育調整担当課長、芳賀教育指導課長、黒川主幹兼教育課程係長、
中田教育センター主幹、大沼高校教育課主幹、大竹教育指導課情報化推進係長

5 傍聴者 2名

6 内容

（1）報告事項

①GIGA スクール構想と本市の取組について

（2）協議事項

- ①探究的な学びの充実を図る情報活用能力育成の推進に向けた教育課程の編成について（教育指導課）
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた情報活用能力の育成（教育センター）
- ③高等学校における情報活用能力の育成について（高校教育課）

7 議事要旨

（1）委嘱状・任命状の確認

大竹係長より委嘱状・任命状の確認。

（2）教育長挨拶

【天野教育長】

教育長の天野でございます。本日はお忙しいところ、そしてお足元の大変悪いところ、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。今年度の仙台市 GIGA スクール推進協議会の委員をお引き受けくださいますありがとうございます。

本協議会は、こどもたちの情報活用能力の育成に向けた学校教育のあり方を検討していくために設置したものでございます。現在、国では学習指導要領の改訂に向けた検討が進められております。その中間取りまとめの中で、端末やデジタルツールは、「デジタル学習基盤」として学びを豊かにするための学習の基盤となっていくこと、そして、情報活用能力は、各教科等における探究的な学びを支える基盤としてより一層の充実を図っていくことが示されております。まだ中間取りまとめの段階でございますが、本市においても令和8年度から令和12年度までの仙台市教育構想2026の中で、デジタル学習基盤の良さを生かした学習の推進、そして、探究的で創造的な学びを自ら進めるためのこどもたちの情報活用能力の育成に向けた取り組みを進めていくことを方針としているところでございます。教育委員会としましても、今後、加速度的に AI 含め情報化が進んでいく社会にあって、こどもたちが情報技術を活用したり、自分の物差しを持ち、自己参照したりすることができるように支援していきたいと考えているところでございます。

本市の現状、そして、本市を取り巻く社会の環境に十分留意しながら、委員の皆様のご知見ご意見を持ち寄りながら、情報活用能力を育む教育の推進に取り組んで参りたいと思います。委員の皆様のご協力を引き続きお願いしながら、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしく願いいたします。

(3) 委員紹介

大竹係長より委員および事務局職員の紹介。

(4) 会長選出

長濱委員より板垣委員の推薦有り。他の委員も異議なしのため、板垣委員が会長に決定。代理者として板垣委員が、長濱委員を指名。

【板垣会長】

ただ今、今年度の会長を拝命いたしました宮城教育大学の板垣です。改めまして、よろしくお願い申し上げます。会長として関わらせていただくのは昨年度に引き続き2年目になりますが、皆様からたくさんのご意見をいただきながら協議会を進めていければと思っておりますので、よろしくお願い致します。

先ほど教育長からのご挨拶にもありましたが、新しい指導要領に向けて、このGIGAスクール推進協議会に関係する内容も、国では大きな議論がなされているところです。今月も情報技術ワーキンググループがございますが、大詰めに迎えておりまして、おそらく年度内には新しい学習指導要領が形として出ます。それに向けて学校も少しずつ移行期間を経て準備を進めていくことになると思います。その時に、現行の学習指導要領から新しく変わるところで学校が新しくチャレンジすべきところもたくさん出てくると思います。これからの努力が、次の学習指導要領に合わせた教育への大きな意味を持つところだと思います。この会議は、そういう意味では非常に重要な場だと思っております。また、学校現場では、学校の先生方そして児童生徒や保護者の皆さんと一丸となって進めていく必要もございます。

委員の皆様には、この場で積極的にご発言いただき、ディスカッションして、実現の可否は別として、アイデアを出していただければと思います。本日、そしてこの1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

(5) 報告事項 GIGA スクール構想と本市の取組について

【事務局（教育指導課長）】

資料1「GIGA スクール構想と本市の取組について」報告

【佐藤委員】

このデータを見て端末の活用率が上がったということに対して、仙台市に一生懸命取り組んでいただいていることに保護者の1人として、非常に感謝しております。また、先生のご尽力や苦勞があってこそその結果だと思っております。8年度の取り組みの内容についても、保護者との情報共有について項目に入れていただいたことは、保護者としてありがたいと感じております。また、無償で端末を更新していただけることについては、保護者の関心が高く今後も気になるところです。

仙台市PTAは、小学校1年生から中学校3年生まで関わることとなります。児童生徒の情報活用能力の育成における生成AI利用に関する保護者との情報共有の話が先程ありましたが、具体的にどのようなことを考えているか教えてください。私の周りで話題になるのは、生成AIなどの情報活用については、結局学校に任せている、または、学校から端末を持ち帰ってきても、保護者がどのように関わってよいのか分からず戸惑っているという声をよく耳にします。具体的にどのような情報共有を考えているのか教えてください。

PTAとしても、情報発信など協力できるところは協力していきたいと考えていますので、何かあればお声がけいただければと思います。

【事務局（教育指導課長）】

各学校では、情報活用能力の育成における生成 AI 利用について、お便りを通じて子どもたちの様子を伝えたり、端末を持ち帰った際の留意点をお示ししたりしているところがございます。このような学校の取組を保護者の方に積極的に発信していけるように、引き続き取り組んで参ります。

【板垣委員】

学校と保護者との連携や情報共有における好事例はありますか。

【事務局（教育指導課長）】

全ての学校ではありませんが、例えば、授業参観で子どもたちが端末を活用している場面を保護者に参観していただくことがあります。また、情報モラルに関する学習において、端末を活用して子どもたちと保護者が意見交換する授業も展開されていると耳にしております。このような好事例を横展開できるように今後努めて参ります。

（6）協議事項

「探究的な学びの充実を図る情報活用能力育成の推進に向けた教育課程の編成について」

【事務局（教育指導課）】

資料2「探究的な学びの充実を図る情報活用能力育成の推進に向けた教育課程の編成について」
説明

【長濱委員】

今年、小学生の子供がおります。最近、入学式と先日の運動会に参加させていただきました。今日も朝顔の鉢を雨に濡れないように先生方が一つ一つロビーに戻している動きを目にしました。運動会の時は、遊具をしっかりと管理するような掲示がされていました。入学式では、業者に頼んでもできないくらいきれいに椅子が並んでいる様子を目にいたしました。このように、多様な校務に先生方が取り巻かれている環境を私たちは大前提で理解しなければならないと思っております。例えば、11 ページに今後の展望が示され、推進協議会のスケジュール表では、問題を擦り合わせて明確なビジョンを立ち上げるとあります。おそらく良いビジョンはできると考えます。しかし、そのビジョンを推進するに当たって、校内で ICT を担当する先生に負荷をかけてはいけないと思っております。

昨年度、この会議に2回参加させていただきました。そこで一番心を打った議論は、ICT 活用推進に関わる先生に関するインセンティブについて具体的な話があったことです。協議では、この推進協議会が管理できる範疇ではないというような現状がそのときには問題としてあったと思います。しかし、この推進協議会というのは、基本的に今より良いビジョンを実現するための体制づくりにあって、ネックになる体制自体にも対応できる管理構造であるべきだと思います。管理構造自体にも問題を提起する力がある協議会だと私は理解をしております。そういう意味で考えますと、私自身は、その ICT の管理運営に関わる先生のインセンティブを段階的に考える必要があると思っております。

例えば、フィリピンでは、勤務時間に配慮した授業のコマ数を減らす政策もあるようです。エストニアや北欧では、実際に金銭的手当を渡すことも行われています。あくまでブレスト段階での発言で、裏を取っていかうと思いますが、シンガポールでは、スタッフディベロッパーで、キャリア昇進ルートでキャリアパスにしっかりと繋がるというような位置づけもあるとのことでした。また、ノルウェーにおいては、ICT コーディネーターという体制で、おそらく日本で言う教育センターから ICT 支援員が学校を回るような制度があります。さらに、シンガポールでは 100 時間の研修権利が得られる体制になっています。今後、ICT 担当教員の本当の仕事を考えた方がよいと思います。

1 人 1 台端末を家庭で充電することが話題に上がりました。先日、SNS 上で「1 人 1 台端末は家で充電させないでほしい」というコメントがありました。そのことについては、家で充電さ

せる意見とそうではない意見に分かれていて、世論を巻き込んだ観点になっていると思います。いずれにせよ、ICT のビジョンを展開するにあたって、担当される先生が苦しい思いをされてビジョンの実現に向かうことは、持続可能性に欠けると思います。そういったインセンティブの範疇になくとも教育委員会の体制に対して、一種疑問を呈するような議論がこの会でできたらよいと思っています。まず、この観点について私から発言をさせていただけたらと思います。

【事務局（田中副教育長）】

只今いただいたご意見につきまして、昨年度この協議会の中でも話題として出させていただきましたし、議論もあったと記憶しております。いただいたご意見の中で、情報教育や端末管理等を担当する教員が学校現場にはおりまして、その業務負担は大きいと認識しております。学校の教員はマルチではないので、専門性との兼ね合いや端末管理、あるいは操作上の知識や技術的な部分も含めたサポートや保証を進めていけるかが、今後の活用幅を広げていく意味では課題であり解決していかなければならない問題だと思います。併せて、現在、教育委員会で実施している ICT 支援員の配置や、情報担当教員の業務内容の見直しも含めて、端末活用率がこれだけ上がってきておりますので、今後は学校現場で実際に活用されている好事例を展開することが先生方のサポートや支援という部分で大きな役割を担えると考えております。その辺りも皆様と議論して進めていきたいと考えております。

【板垣委員】

今、追加人員の配置や給与面でのインセンティブの話もありましたが、業務時間にゆとりを持たせというような形での実現についてお話がありました。校長先生が学校のマネジメントされていく中で、ちょっとした余白の時間を生み出すような工夫など、学校単位で考えた場合、可能性はありそうですか。

【木村委員】

小学校の観点から、時間の余白を生み出すには、人員の配置が必要です。とても素敵な子育て制度ができました。育休を取る先生方がたくさんいらっしゃる中で、時間と人員が学校には必要になって参ります。私も何人かの GIGA 担当の先生を見てきました。先生方が生き生きと GIGA の推進に向かって頑張れるのは、自分がやりたいと思ったことが学校で実現し、それが便利だったのでとても助かったと同僚からの労いの言葉を受けて自己有用感を高めることでした。教職員のモチベーションを高める管理職のあり方、同僚の考え方、こどもたちにとって GIGA の学習は大切だという共通理解、これが大切になると考えております。

【関委員】

岩切中学校の事例を紹介しながらお話いたします。岩切中学校では、GIGA の担当の先生は基本的に複数おりまして、分野で別れて仕事を担当しておりました。主に、GIGA 端末を管理する先生や設定などを主に担う先生などです。木村委員の話にもありましたが、新たに専門の人材を配置するのは、校内事情を考えて難しい状況でした。そのような教員の状況でしたので、ICT 支援員を活用して教員の ICT 活用を推進しておりました。

岩切中学校では、端末を活用することが目的ではなく、学校教育目標を達成するための一つの手段として ICT の活用を進めてまいりました。校内研究においても同様に、「主体的に取り組む生徒の育成」を研究目標の中心と捉え、生徒が主体的に学習するにはどうしたらよいか、各担当や自分の授業あるいは、自身の校務分掌の中で何ができるか考えながら学校全体で研究を行いました。その中で、ICT を活用することに効果を感じた教職員が増えて、様々な場面で端末活用が豊かになっていった流れがあります。

また、岩切中学校では、授業参観ウィークを設定して、先生方同士で授業を見合い、研修を深めており、ミニ研修として、職員会議の前に少し時間を取って研修しておりました。さらに、岩切研究フェスと称して主体的に取り組む生徒を育成するために先生たちがそれぞれの場面で取り組んでいる個人研究の発表会を行い、お互いの成果や課題を共有して教え合う場を設定しておりました。このような先生方の取り組みから、ICT を活用することに抵抗がある先生も挑戦

するような雰囲気になっておりました。このように、プラットフォームとして教員同士が ICT を活用するメリットを共有したり普及したりすることが大切だと感じております。

【西城委員】

かつてのとにかく端末を使いなさいとか、とにかく話し合い、とにかく学び合いなさいといったところからは先生方は一皮むけた感があります。高校では必要な場面できちんと端末を活用して必要な場で話し合いや学び合いを取り入れられるようになってきていると私自身授業を見ながら感じているところです。これは、若い先生が増えて、初任者研修等で情報共有する場面が増えたことが大きいところです。そういう意味で、端末は授業ではもはや教科書であって、筆記用具であって、辞書であって、コミュニケーションツールであって、もう必要不可欠なステーションナリーになってきたと感じます。また、これだけ高校生が端末を使えるのは、一重に小中学校でのご指導のおかげだと考えております。本当に感謝しているところです。ただ、これだけ端末を活用していると故障することも多々あり、予備端末の入れ替え作業を2人の教科情報の担当の先生方が行っています。2人だけでは手が回らないので、自分たちができることは行い、できないことは業者に任せるなど ICT 支援員には本当に助けられていて感謝申し上げたところでございました。

高校には、特色があり実習助手がいます。本校では、会計年度職員として実習助手がいて、その方が細々とした日常の ICT に関わることを全部引き受けてくれているので、2人の先生方にも余白が生まれている状況です。情報担当の先生には負担感がありますが、それなりに授業や部活に集中できるような体制が整えられているというところです。

【板垣委員】

実習助手の話や長濱先生から話題提供いただいた諸外国の取組も参考にしながら持続可能な体制での支援も検討していくことは一つだと思います。そのために何ができるか考えると、人員や給与を今すぐに増やすことは難しいと思います。

学校にボランティアに行かせていただいている学生が年間で多くおります。学生たちは現場を肌で感じて、持ち帰って帰ることが多くあります。私の近くにいる学生だと、比較的 ICT に慣れている学生が多く、ICT の面でお手伝いしてきましたというような話を聞かせる学生もいます。学生ボランティアを活用しつつ、長期的に持続可能な体制を模索していくことも当面の手段として考えられると思います。

稲垣先生から先立ってご意見を頂戴していた部分で共感できるところがありましたので、お伝えします。

教科等横断的に情報活用能力育成をするためのカリキュラムマップを示していますが、今度小学校の「総合」の中に「情報の領域」が付加されたり、中学校では、情報・技術科に新しく内容が加わり学習内容が充実したりしています。それに向けて、特に小学校の「総合」で力を入れるところや技術科で力を入れるところの専門性を高くして時間を割いて学ばせる指導要領の新しい視点は、当然必要になってきます。総合的な学習の時間や技術科の時間で重点的に取り組んでおく他他の教科でも役立つことは、今のうちから取り組んでいると、次の指導要領に向けて良いスタートになると思います。

【関委員】

技術の「情報」分野の情報モラルについてお話します。技術科で扱う情報モラルは同じ情報モラルでも視点が変わっていくので、全て技術に丸投げされると困る部分があります。技術科に関係なく、情報モラルに特化して指導する必要があると考えます。岩切中学校では、月に1回朝の時間を使って、情報モラルの指導について時間を設けていました。

また、技術科は、自分で課題を見つけて解決していく力が非常に大切だと思います。その時間を確保するために ICT を活用した情報共有や個別最適な計画作成が欠かせないと思います。そのようなことを意識して実施すればよいと思いました。

【板垣委員】

技術科の情報モラルについては、テクノロジーの仕組みを理解していると、巧みに情報技術

を活用できる側面があります。そのためには、学習する時間が必要になります。先ほど、朝の時間を活用したり、総合的な学習の時間を活用したりする話がありました。例えば、年度始めに情報を安全かつ適切に活用する話し合いを計画的に行うことも有効かと思います。今後計画を立てていく上で今いただいたような話も参考になると思います。

（７）協議事項 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた情報活用能力の育成」

【事務局（教育センター）】

資料３「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた情報活用能力の育成」説明

【佐藤委員】

普段、こどもたちが協働の学習場面で ICT を活用していることは、あまり意識していませんでした。教育センターからの説明を聞いて、今後大切になるところなのだと感じました。こどもたちは、主に家庭で動画を見たり調べ物をしたりする時に端末を活用しています。その中で、協働的な学びにつながる家庭でのアプローチや保護者がどんなことを意識して支えればよいか考えがあれば教えてください。

また、学校の授業の妨げになってしまうような家庭での端末の使い方などがあれば合わせて教えていただきたいです。

【事務局（教育センター）】

教育センターが授業づくり訪問で具体的な授業のつくり方を先生方と一緒に考える時に、お願いをしている一つでもあります。クラウド上に資料が載っている状況をつくってあげることが、教員が一番初めに児童生徒に対して教えることです。その環境を整えておくと、家庭に端末を持ち帰った際に、児童生徒が確認したい資料を確認したいタイミングで見ることができるように考えております。そのため、教員にはクラウド上に資料を準備するように働きかけていきますので、保護者の皆様からは、クラウド上の資料を確認するようにお子様に進言していただけると良いと思います。

もう一点は、端末は学習に必要な道具として一人ひとりのこどもたちに割り当てていることです。学習に関係ない事を調べるような使い方をしていないか、各ご家庭で声掛けしていただくことが大切なので、お子様の学習の様子を見ていただくことが我々教員としては、保護者の皆様にご協力いただけることだと思っております。

【板垣委員】

協働的な学びの「協働」は、チャットや Google Meet、Google クラスルームのように端末を活用して同時にやり取りをすることだけではなく、ファイルにコメントしたり、友達の学習を閲覧したりすることも含まれます。直接同期型のリアルタイムのコミュニケーションだけでなく、クラウドで共有している友達の成果物を見て学習することも「協働」と言えます。端末やクラウドを利用して様々な「協働」の手段があるので、家庭でも柔軟に端末活用することができると思います。

【陶山委員】

端末を活用するようになってよかったと思うことがいくつかあります。仙台高校では、スタディサプリを使っております。動画で有名な塾講師さんの楽しい授業がいつでも閲覧できると先生から聞いてとてもよいと思いました。しかし、こどもが自宅に持ち帰って、活用しているかという活用していないところがあるので、こどもの学習意欲が高まる工夫があるとさらに楽しく取り組めるようになると思いました。

高校生になると、家庭にプリントが全く届かなくなります。昨年度、学年行事で母親の行事参加の募集をかけたのですが、全然人が集まりませんでした。そこで、直接メールでお誘いしたところ、プリントが配られていないことが分かりました。そのようなことがあったので、今年は学年主任の先生と相談して、学年行事と行事に関する申し込み用紙のデータを、一斉メールとアプリの両方で送っていただいたことがよかったと思います。また、こどもが小学生の頃

に「お母さん先生」をさせていただきました。その時に、授業を見ていて、こどもたちの学習進度に差が生じる場面がありました。そのクラスでは、学習が進んでいるこどもに挿絵の色塗りをさせるなど、個別最適に学習が進めることができていて、良いことだと思います。

また、パソコンを使って学習する内容は別ですが、紙に書く学習活動も選択肢としてあるとよいと思いました。

先ほど、勉強以外はなるべく端末は活用しないという話があったと思いますが、こどもたちは楽しくないと活用しないところがあるので、自由に活用させる方がよいと思いました。タイピングゲームや描画アプリ、作曲アプリやインターネット検索など自由に活用できるようにするとこどもたちは楽しく活用できると思います。

最後に、不登校の児童生徒も端末を活用してオンラインで授業を受けることで、授業の単位にカウントできる制度があるとよいと思いました。

【事務局（教育センター）】

タイピングに関しては、ドリル形式のもので、トロフィーなど学習意欲が高まる工夫がされていたと認識しております。そういうポイント等のソフトが入っていることも確かでした。紙の活用については、授業では、クラウド利用など端末を活用する良さを活かした端末活用を推奨しております。もちろん、学習場面によっては紙の活用もあるので、紙を利用することを推奨していないわけではありません。デジタルの良さや紙の良さを活かした形で授業を進めて参ります。

【木村委員】

教育センターで実施している授業づくり訪問は、先生方が授業について協働的に考え、より良い授業をつくり上げるための大切な機会だと考えています。また、授業づくり訪問後は、頑張った先生が新たな学びをし、授業研究に対して意欲が高まるので、職員が成長する良い機会になっていると考えています。ICT の活用頻度は先生方によって異なります。ICT の活用を進めるのであれば、授業づくり訪問後も校内の先生方と共に学ぶ OJT を行います。ICT 活用を推進させるために、学校をあげて校内の先生方と共通理解や連携しておくことが、活用の際の安心感にもつながると思います。

【板垣委員】

校長先生のリーダーシップや研究推進担当教員のリーダーシップで、一つ一つの教室から学校全体が変わっていく部分がモデルになり、真似をしていくような学校がどんどん増えていくとよいと期待しているところです。

【稲垣委員】

自由進度学習など、学校の授業が変わっていく話の中で、学校としての取り組みが大切になります。特に、先生方のネットワークを大切にしながら学校の研究として授業づくりをしていくことが大事です。また、学年によって学習に差が生じることは望ましくありません。学習を積み重ねて、仙台市の教育構想が目指す主体的に学ぶ姿に繋げていく学校の取り組みが大切になっていきます。

（８）協議事項 「高等学校における情報活用能力に育成について」

【事務局（高校教育課）】

資料４「高等学校における情報活用能力の育成について」説明

【佐藤委員】

高校と小中学校との今後の連携について教えてください。小中学校で自校化した取り組みに各学校で差があるとのことでしたが、義務教育である小中学校の取り組みが、高校に進学してからどのように連携されていくのか具体的に教えてください。

生成 AI を利用してプログラムを作成する時代かと思いますが、生成 AI を利用して指示を出し

たり修正したりする正しいプログラミング学習を授業でどのように取り扱っていくのか教えてください。

【事務局（高校教育課）】

小中高の連携についてお話いたします。小中学校で1人1台端末を積極的に利用している中で、高校への入学時は、端末の活用について非常に習熟している部分があります。さらに、仙台市立高校の9割弱が仙台市立中学校からの進学者なので、生徒は、ほぼ一貫して端末を活用できる状態にあります。高校でも小中学校と同じようにChromebookを使用していますが、高校1年生が授業を受ける時点で既に準備ができている状態です。市立高校は、5校6科でそれぞれの学校が目指すグラデーション・ポリシーにおいて、プログラミング教育を含む情報活用能力の育成は各学校それぞれの取り組みとなります。教育センターで作成した「情報活用能力学習目標リスト」を実際に学校にどのように落とし込んでいくかは、今後、高校教育課で研究していきたいと考えています。

二つ目のプログラミング教育における生成AIの授業活用については、プロンプト指示等、授業でどのような工夫ができるのか私自身も理解していない部分があります。先程、当課からの説明後半でもお伝えしましたが、仙台高校を含む他の市立高校においても、学校を訪問してその取り組み状況取材し皆様に共有しつつ、学校に横展開していきたいと考えております。

【板垣委員】

情報技術ワーキンググループの議論でも、プログラミング的思考が新しい定義に整理がされたところで、AIを前提としたプログラミングの形に社会的、教育的になっていくところです。今後、AIを活用したプログラミングが小学校でも体験するようになったり、中学校でも学習したりするようになった時に、高校での学び方が大切な着眼点になっていくと思います。

【稲垣委員】

プログラミングに関しては文部科学省でも考え方を変えながら進めている状況です。情報活用能力の中高の体系化の話がありましたが、現時点で緊密なカリキュラム連携を行うのは、難しい部分もあると思っています。特に、高校の先生方で情報担当の先生だけではなく、他の教科の先生方にも現状が伝わるようにしていただきたいです。

また、端末活用に関するスライド5について質問させてください。学年別の利用率の部分で、2024年度から2025年度にかけて高校1年生で端末利用率が落ちているなど、昨年度と異なる部分についてご存じのことがあれば、原因も含め教えていただければと思います。

【事務局（高校教育課）】

高校1年生の端末活用に関するデータの落ち込みの理由については現時点では分かりません。ただし、2年生、3年生では増加傾向にあったことは、前回の協議会で取り上げていただきました。これは、端末が高校に導入され、利活用が進んだことが考えられます。また、先生方も若い先生を中心に授業での端末活用が進み習熟している結果だと思います。1年生の部分で端末活用のデータが伸びていれば嬉しかったのですが、また今年度の結果を見ながら分析いたします。

8 閉会

【事務局（教育指導課情報化推進係）】

本日は、ご多用の中、協議会のご出席ありがとうございました。本日の皆様のご意見、協議を踏まえながら本市におけるGIGAスクール構想の着実な推進に向けて関連事業を進めてまいります。引き続きご協力よろしくお願いいたします。次回協議会は11月を予定しております。これで令和8年度第1回仙台市GIGAスクール推進協議会を終了いたします。